



この街が好きだから

武蔵野スケッチ物語

絵と文
大須賀一雄

85

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

境南町三丁目にて

この作品は、境南町3丁目の道路沿いで、西を向いて描いたものである。

ところで今回は、私の国鉄（現JR）時代の体験を紹介したい。ある年の秋、視察に訪れた英国国鉄の代表者3名を、当時建設中の青函トンネルの作業現場に通訳として案内した。青森県側の竜飛^{たがひ}から地底に降りた我々が作業車で掘削現場に向かうと、NHKの取材班が待ち受けていた。

最先端の現場では、掘削機のごう音が坑内全体に響き渡り、世紀の大工事の観を呈していた。これを目撃した代表者の一人G氏は、突然「この工事は、セブンワンドーズに加えない」と叫んだ。私は、この言葉はそのままでは通じないと思い、とつさに「この工事はエジプトのピラミッドのように、世界七不思議に加えない」と通訳した。

このシーンは1985年11月4日、「ぐるっと海道3万キロ」という番組で放映され、私にとつて忘れ難い思い出となった。

大須賀一雄（おおすか・かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。